



VOL.181

タウンマガジン なかつ

TOWN MAGAZINE NAKATSU



北高女子バスケット部
四年連続インターハイ出場
中津開催で活躍期待

25年間の活動振り返って 相良 卓紀

全国的に有名になった竹馬会(三光)の泥田バレーも今回をもって幕を閉じたが、思い出の記事を寄せてもらった。



松知事の教えに、大分県下の各市町村でも地域づくり活動が盛んに行なわれていた。

松知事の教えに、大分県下の各市町村でも地域づくり活動が盛んに行なわれていた。

松知事の教えに、大分県下の各市町村でも地域づくり活動が盛んに行なわれていた。

北海道など全国に広がる

コート・ルール作りに苦労

それから半年後、竹馬会の挑戦が始まった。平成元年五月、会員の田んぼに水を張り、果たして

と、それが次の問題はチーム集めである。竹馬会のメンバーが頭を下げて回って、知り合いに頼みこんだ。

「泥田バレーボール」の始まりである。

「泥田バレーボール」の始まりである。

な発想に、「そりゃあ、おもしろいかもしれんなあ。よし、竹馬会がやろう」と、酒の勢いで無責任な発言をしたのが、全国に広がった「泥田バレーボール」の始まりである。

一日中大会の模様を撮影した。「今日、ここ大分県三光村でバレーボール大会が行なわれますが、会場は水を張った田んぼです。され、コートは白線代わりに使うものは何でしょうか？」この問題に出演のタレントがユニークな回答を連発。そして正解の風船を並べるといふ答えが映像で流れ、日本初の泥田バレーボール大会が全国の視聴者の目に留まることとなった。

また、大会の様子は、新聞、テレビ各社でも大きく取り上げられ、結成三年目の竹馬会の存在が知られることとなった。

第一回の成功で、その後二回、三回と開催したが泥まみれのイベントはあまり喜ばれるものではなく、参加チームも第二回は十三、第三回は十六と第一回を上回ることはなかった。

このまま、終わろうかと思っていたとき、北海道深川市の農業青年から連絡があった。彼らも平成三年に「どろんこフェスティバル」なるイベントを開催し、その中の種目の一つとして

自分たちの地域を何とかしたい。当時、平松大分県知事が提唱した「一村一品運動」が全国に広がり、一村一品運動の究極の目的は「人づくりである」との平

「田んぼの中でバレーボールでもやったらおもしろいんじゃないの」誰からともなく出たそん

「何とかなる。よし、やろう。」あとは、コートをどうやって作り、ルールをどうするかである。ネットは野外用のバレーボールのボールとネットを使えばなんとかなる。問題はコートである。水を張った田んぼではラインが引けない。いろいろ考

こうして、水を張った田んぼの中でバレーボールをするという「泥田バレーボール大会」が、平成元年八月六日に二十一チームが参加して、日本で初めて開催されることとなった。

準備を始めてから僅か三カ月、ところがなんと、テレビ朝日が、萩本欽ちゃんのお昼のテレビ番組「欽ちゃんのどこまで笑うの」というクイズ番組で採用することになり、大会当日、東京からスタッフが訪れ、

バレーボールを行なったという。ところが、取材にきたテレビ局の記者から同じようなイベントを九州でもやっていると話を聞き、竹馬会の泥田バレーの存在を知ったという。平成四年三月、深川市から三名の青年がはるばる竹馬会を訪れ交流が始まった。今度は竹馬会メンバー十六名が平松知事など一緒に北海道を訪れ、竹馬会は独自で深川市を訪ねし市長の歓迎を受け、地元農業青年などと交流を深めることができた。

その後、第四回、第五回と開催したものの、参加チーム数は十七、二十と増えることはなく、第五回大会の閉会式で、この大会限りで終わりにすることを宣言した。

ところが今度は、平成六年三月、TBSテレビから連絡があり「四月からの新

各テレビが全国へ人気呼ぶ 三光村の一大イベントに

番組で有名タレントがユニークなスポーツに挑戦する『楽珍スポーツ共和国』という番組が始まる。ついで、竹馬会の泥田バレーボールに挑戦する企画が検討されているので、日程が合えば是非採用したい」という。第六回を開催する予定はなかったが、こんなチャンスはそんなにある訳もなく、急きよその日の夜に竹馬会のメンバーを召集し、協議を行なった。

竹馬会が開催しないのであれば、そのころ山口県など他地域でも行なっているところがあり、そちらに話をするということであったため、全員一致で終了宣言を取り消し、第六回大会を開催することになった。

その噂は、瞬く間に広がり、参加チームも過去最高の三十二チーム、観客も千人を超える、当時の三光村始まって以来の一大イベントと



今年香岐市に指導に行った第一回泥んこバレー大会①平成11年指導に行った平田市の泥田バレーボール大会②

なつた。番組は、優勝チームにタレントチームが挑戦するという設定で二日間のロケが行なわれ、吉村明宏らの体育系有名タレント六人が泥田バレーに挑んだ。番組はゴールデンタイムの午後七時から八時の中で約三十分間、全国に放送された。

翌年には、別の番組で元全日本の益子直美さんも挑戦し、全国放送が続いたことで、泥田バレーブームに拍車がかかり、毎年参加チームも増えていくことになった。

平成八年には広島県呉市で、竹馬会の指導のもと「第一回泥んこバレーボール大会」が開催され、竹馬会から二十人が呉市を訪れ、運

営・技術指導を行ない、その後三年間、お互いの大会を訪れ交流をおこなった。さらに平成十一年には、島根県平田市（現出雲市）でも地元の青年グループが泥田バレーボール大会を開催することになり、こちらも竹馬会から運営・技術指導に出かけ、その後五年間お互いの大会に出かけ、交流を深めた。今年で十五回を迎える。

竹馬会も第五回大会で一旦終止符を打ったものの、テレビ番組、他地区との交流、さらには毎年参加してくれた多くのチームに励まされた。

当時の男性会員は、五十

今年香岐で大会始まる

竹馬会の願い島が受け継ぐ

竹馬会の泥田バレーが最後となるこの年、新たに始めるところがある。

竹馬会の大会に過去二回、長崎県香岐市から出場したママさんバレーの「香岐レディーズ」が、泥田バレーの魅力に取りつかれ、今年五月十九日「第一回香岐の五歳を最高に二十代までの四十人程で構成されていたが、二十五年が経過し、高齢者は八十歳になった。また当時、小学生だった子どもたちが結婚し、子どもが生まれ、竹馬会に入会する若者がいるにはいるが、泥田バレーを継続していくだけの会員は確保できない。この様な状況の中、平成二十年の第二十回大会以降は、毎年のようにいつまで続けることができるか、いつ止めようかということと話合ってきたが、いよいよ、今回の第二十五回大会を節目に、四半世紀に亘る大会の幕を閉じることに決めた。

島 泥んこバレーを開催した。大会の運営・技術指導と、竹馬会から十四人で香岐市を訪れ交流を深めた。二十五年間続いた竹馬会の泥田バレーが、香岐の島で受け継がれることを願いながら、竹馬会の「泥田バレーボール大会」四半世紀の幕を閉じたい。